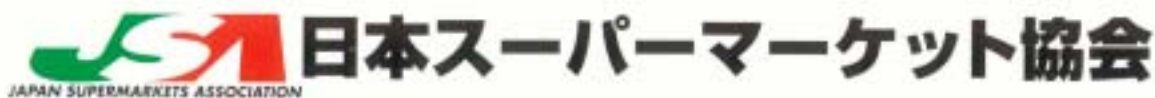


平成14年10月25日



平成14年9月 マンスリー レポート

集計企業数 40 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	22,585,500 万円	100.0%	104.9%(104.5%)	21,216,574 万円	100.9%(100.4%)
食 料 品	17,468,799 万円	77.3%(76.3%)	106.5%(105.9%)	16,347,523 万円	101.8%(101.1%)
農 産	2,737,621 万円	12.1%(11.7%)	107.2%(106.9%)	2,572,480 万円	102.6%(102.3%)
水 産	2,169,473 万円	9.6%(9.3%)	104.9%(104.0%)	2,024,958 万円	100.2%(99.3%)
畜 産	1,999,267 万円	8.9%(8.3%)	105.5%(100.9%)	1,870,213 万円	100.8%(96.2%)
惣 菜	1,695,307 万円	7.5%(7.8%)	107.1%(107.6%)	1,587,246 万円	101.8%(102.3%)
日配食品	4,021,781 万円	17.8%(16.7%)	107.6%(107.3%)	3,741,886 万円	103.0%(102.4%)
加工食品	4,845,350 万円	21.5%(22.3%)	106.2%(106.5%)	4,550,740 万円	101.4%(101.8%)
生活関連	2,194,703 万円	9.7%(10.0%)	99.5%(98.7%)	2,101,635 万円	98.0%(96.7%)
衣 料 品	1,400,788 万円	6.2%(6.6%)	96.5%(99.7%)	1,353,744 万円	96.8%(99.1%)
そ の 他	1,521,210 万円	6.7%(7.1%)	103.0%(103.0%)	1,413,672 万円	99.7%(99.8%)

数 値

全店総売上高	22,585,500.0 万円	店 舗 数	1,771 店舗
総売場面積	3,689,231.9 m ²	総従業員数	113,415 人

店舗平均月商	12,753 万円	平均客単価	2,001.7 円
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円(6.7 万円)	平均店舗面積	2,083.1 m ²
月間坪売上(前月)	20.2 万円(22.2 万円)	パート比率(前月)	73.7%(73.6%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 残暑が続いたため、昨年より秋物商品の動きは遅れる。しかし、飲料などの涼味商材が好調だった、夏物衣料の処分ができたなど、トータルではプラスに働いた
- ・ 安心・安全に対する消費者意識が高く、慎重にお買物をされている様子が見える
- ・ 無登録農薬の影響は多分にあったが、逆に産地証明などをつけたものは、農産に限らず軒並み好調
- ・ デフレ傾向は止まらず、客数は前年確保も、単価は昨年を大きく割り込んでいる
- ・ 「敬老の日」「お彼岸」など、社会行事に対する節約傾向が強くなっている

商品動向

農産

- ・ 農産は、「柿」の出荷が例年より早く好調に推移
- ・ 「マツタケ」は残留農薬の影響により、売上が大幅減
- ・ 「梨」は無登録農薬の影響により売上鈍化、また「二十世紀梨」は年々縮小傾向
- ・ 残暑により「サラダ商材」依然として好調

水産

- ・ 水産は「さんま」が本格的に動きはじめる。値頃なせいいか生・焼・塩と全て好調
- ・ 安心・安全志向からか、地場の魚がとれる店は比較的好調
- ・ 刺身の単価が下落傾向。300円台の商品もでている

畜産

- ・ 畜産はBSEの発生から約1年が経過。牛肉の売上は安定してきた
- ・ 加工肉は日本ハムの影響から、昨年を下回ったところが多い。

惣菜

- ・ 惣菜は、各店夕方にあわせて作りたての訴求に注力し、売上を伸ばしている
- ・ 弁当は単価が下がりつづけており、3～400円台が主力。500円を超えると動きが鈍る

日配・加工食品

- ・ 日配食品は、残暑により「牛乳」が好調。原乳の確保に苦労した
- ・ 反面、おでん種などの鍋物関連の動きが鈍く、季節の切り替えが遅れた
- ・ TV効果と気温により「もずく」が好調。TVで紹介された商品は軒並み大きく売上を伸ばしている
- ・ 加工食品は、先月に引き続き飲料の売上が好調
- ・ 鍋物・シチュー関連は地域の気候によって大きくばらつきが出た
- ・ 新商品の効果もあり「即席麺」が好調。また、創作ラーメンと低価格ラーメンの二極化の傾向が出ている

その他

～「敬老の日」について

- ・ 1000円以下の寿司は好調。1000円を越えると途端に動きが悪くなる
- ・ 「栗おこわ」「カキフライ」など、旬の素材を使ったお弁当が好調。しかし「マツタケ」は前述のとおり不調
- ・ 全般的に少量化がみられ、「ごちそう」という意識が薄れてきている

～「お彼岸」について

- ・ 残暑・雨など天候要因により「おはぎ」が不調
- ・ 生花は好調。特に300～400円ラインが好調
- ・ 「お供え物」は果物関係が好調。その他はあまり動きはなかった

～秋物商材について

- ・ 残暑が中旬まで続いたため、「おでん種」「鍋物関係」など気温の影響を受けやすいものは不調
- ・ 「栗おこわ」「赤飯」などご飯ものは好調に推移
- ・ 農薬の問題がない旬の商材に関しては、出荷が早まっていることもあり好調
- ・ ノンフーズの夏物処理は順調に進んだが、中旬から下旬に気温低下があまり無かったため、主力商品が伸び悩む

